

支援対象者の基本情報

- ・ 年齢・性別：50代・男性（以下A氏）
- ・ 障害種別：精神障害
- ・ 障害者手帳の有無：精神障害者保健福祉手帳 2 級
- ・ 障害支援区分の認定・福祉サービスの利用：なし
- ・ 家族構成：父、きょうだい
- ・ 支援前の状況：統合失調症の症状が表れていたが、A氏は十分に自身の障害を理解していなかった。また、殺人罪の服役であったが、家族の身代わりとして受刑したと認識していたため、家族はA氏の出所に対して拒否感や恐怖感があった。
- ・ 支援前の生活課題：長期刑のため出所後の社会生活に不安があった。精神科の受診と服薬管理が継続的に必要な状態である。一般調整であり、出所後の住居は決まっていたが、福祉サービスにはつながっていなかった。

支援内容

■ A氏が抱える生きづらさ（アセスメント・見立て）

統合失調症により、生活に支障が生じていたものの、医療につながっていなかった。おそらく10代の頃から症状があったと考えられるが、家族は「少し変わった子」として接し、適切な支援を受けずに過ごしていた様子である。そのため、**服薬継続の必要性と障害理解の促進**を中心に支援を検討した。

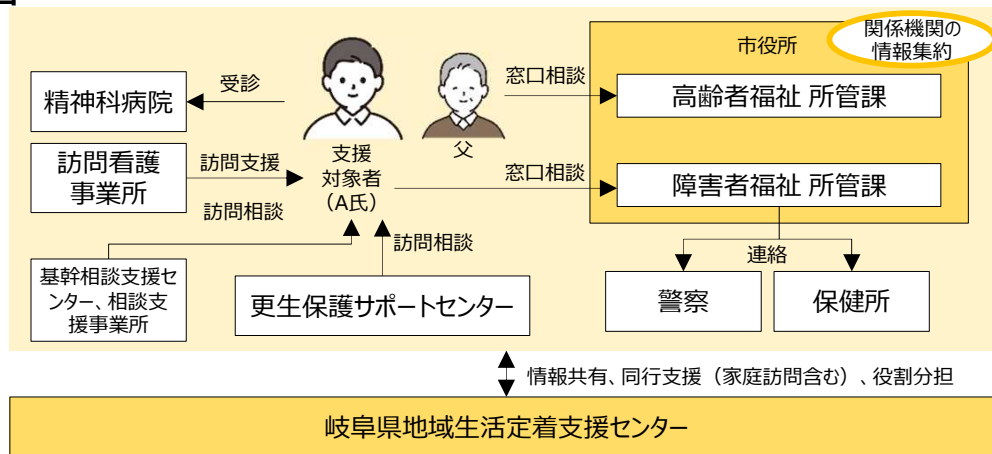
■ 生きづらさを解消するための支援

幻聴と処方薬に関する説明を丁寧に繰り返し、服薬の重要性和障害への理解を促すことに注力した。また、帰住地がセンターから遠方であったため、**地域の関係機関やそのネットワークを頼り**ながら支援体制を構築した。

■ 今後の支援の方向性

障害年金が支給されたことで、金銭的な不安が軽減した。日中活動として家族の仕事を手伝いながら、安定した生活を送っている。今後は、障害福祉サービスの利用も視野に入れながら、就労支援に向けた検討を行っている。

■ 支援体制図



センターの基本情報

- ・ 職員数：常勤6名、非常勤1名（うち有資格者 5 名）
- ・ 職員の主な保有資格：社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、介護支援専門員、相談支援専門員（障害）、保育士
- ・ 運営主体：社会福祉法人美谷会（2022年受託）
- ・ 受託法人の強み：児童・障害・高齢の各分野に専門職が在籍している。
- ・ 地域の特徴：自然豊かな環境に恵まれ、伸び伸びとした生活を送ることが出来る。社会資源は少ないものの、「何かしよう」と協力し合う土地柄である。

連携にあたって苦労したことは？

- 帰住先地域の社会資源について、十分な情報を持っていなかったため、まずは基幹相談支援センターに連絡しました。基幹相談支援センター、市役所、保護司から協力を得たことで、多様な関わりが可能となりました。
- 支援体制の構築にあたっては、関係機関が集まりやすく、連携しやすい仕組みを検討しました。その結果、情報が集約される市役所に中心的な役割を依頼しました。
- A氏の状態が安定したからと、市役所から支援会議の終了が提案されました。一方で、支援者によって見立てが異なり、直接的に支援を行う事業所の職員は不安が残っていました。そのため、**今後、起こり得る問題や、見通しを共有し、認識を統一できたことで、会議は継続的に開催されることになりました。**

連携にあたって工夫したことは？

- A氏を含む関係者が「安心できる」ことを意識しました。A氏や家族が安心して支援者に相談できること、支援者が安心してA氏に関われる体制を整えることの2点がねらいです。
- **A氏は殺人を犯していますが、その事実の受け入れができておらず、家族や支援者が「何らかの被害を受けるかもしれない」という心配がありました。**そのため、**一つの事業所で抱え込まないように、関係機関の役割と責任分担を明確**にしました。また、万が一の事態を回避するために、警察や保健所と連携して、状況の共有や対応の確認を行うよう努めました。

支援によるA氏の生活上の変化は？

- 徐々に支援者との信頼関係を構築し、不安や体調を話せるようになりました。また、他者との関わりも増え、落ち着いた生活を送っています。